

写経

(現代の写経より)

“物豊かにして心亡ぶ”

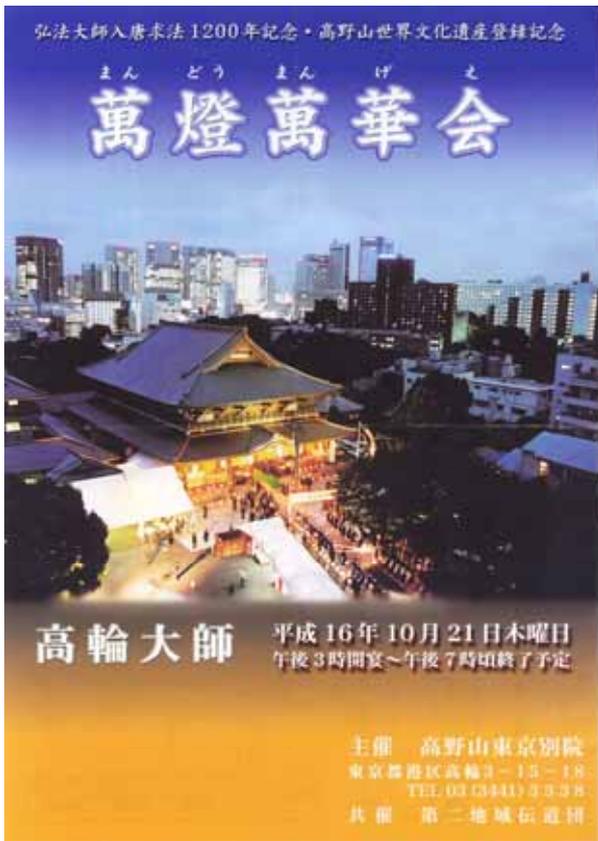
わが国はいつしか経済大国と言われるようになり、生活は豊かになりましたが、物豊かにして心亡ぶのたえのように、世の中の混乱は青少年の非行にまで広がってきました。豊かさの次には心と身体の健康、そして心の安らぎと生きる力となるような心のよりどころが求められるときがきたのです。

写経をしてみませんか！

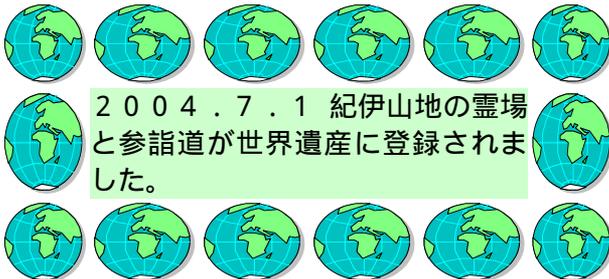
現在の写経は、だれでも、どこでも、どんな方法でも行うことが出来るようになりました。伝統的な厳しさにこだわらないで、心やすくご参加ください。
仏道の修行はもちろん、教養、修養、修業、書道などさまざまな立場で写経に親しみ、心の安らぎや生きる力を求めることと考えます。心すべきことは、伝統写経の本旨を理解し、心に銘じて忘れないことです。
伝統的な写経とは、仏教の信者がきまりに従って仏典を正しく書き写した上で、供養し埋納経するなどの仏道修行であったといわれています。

写経の功德！

写経の功德とは、善を積んだ手柄、仏道修行の功のことで福德機能をいいます。ご利益とは、神仏の靈験効能をいいます。辞書にあります。経を写すという仏道修行による善行を積むことによって、神仏の靈験として、写経をした者にいたただける喜びが写経の功德といふことになりましょう。



高野山法皇 又統王御坐像第六十一作の御坐像部分 江戸時代 高橋敬行



2004.7.1 紀伊山地の靈場と参詣道が世界遺産に登録されました。

空海の言葉 シリーズ

四大のそむけるには薬を服して除き、
鬼業のたたりには呪悔をもってよく鎮す。
薬力は業鬼を却くることあたわず、
呪功は通じて一切の病を治す。

お大師様は、身体の病気には三つの原因があると言われていて、第一には四大不調といって、内臓や肉体の不調和、故障とか、使いすぎの疲れとか、あるいは運動不足などからくる病気である。

第二には鬼病といって、亡くなった人があの世に行ったのはよいが、執念などのために迷ってしまつて自分の進むべき道を順調に進むことができず、最後に助けを求めて血縁の子孫の者や縁のある人に頼つてきてそのことを知らせるために、憑いた人を病気にする場合がある。これを昔は鬼病といい、今日では憑依霊による病気といっている。しかし縁のない人にはつかないから恐れることはない。だが縁あつてつかれてしまつたら、その亡者を向上の道へ、成仏の道へ導いてあげるより外にこれと絶縁することができないといふことである。

第三には業病といって、前世の悪因の報いで長い苦しい病気にかかる場合である。普通病気といえば、肉体の不調和からくる病気としか考えないけれども、鬼病、業病のあることも知っておく必要がある。

お医者さんの薬や針や灸で治すことのできるのには、第一の身体の調子の狂つた四大不調の病気である。ところがお医者さんにくらかかってもさつぱりラチがあかないという時がある。この時には業病、鬼病を考えてみなければならぬ、お大師様はおっしゃつて、業病、鬼病のたたりには、薬をいくら飲んでもみたくところをこれをしりぞけることはできない。心を清らかにして真言を至心に念誦し、懺悔することにより、仏天のお加護が加わつて過去世からの罪障も清まり、また憑依した霊の心も安まつて、その亡者も進むべき道に進むことができるようになるから、鬼病も治る。また真言念誦は病人の心を静めることができるから、通して一切の病気に功がある。

